

おわりのことば

ここ 10 年で特別支援教育を取り巻く情勢が急激に変化してきました。

平成 11 年(1999 年)「養護・訓練」と呼ばれていた領域名が「自立活動」に改名、同時に個別の指導計画の下での指導が明記され、平成 15 年(2003 年)に個別の教育支援計画の策定が求められました。

平成 19 年(2007 年)には、障害児教育の枠組みが特殊教育から特別支援教育へと切り替わり、この年に本校も養護学校から特別支援学校に校名が変更されました。

平成 20 年(2008 年)の 12 月に特別支援教育の学習指導要領の案が告示され、改めて個別の指導計画と個別の教育支援計画の大切さが示されています。

これらの一連の情勢の変化から見えてくるのは「個人の教育的ニーズを重視して学習を含めた生活をする上での困難さを改善・克服するための支援へ」という個別指導観の変化でないかと思われます。そこで大切になってくるのは、そのニーズの読み取りや育てる取り組みなど、その子にとっての最良な支援のあり方をどのように実践できるかであり、それが問われている気がします。

私たちは日々の教育実践を行っていく上で、いつも「目の前の子どもから出発する」という姿勢を大切にしていましたが、ややもすると教師、保護者または学校、家庭の教育的な都合で子どもたちが本来持っている「～したい・やってみたい・～になりたい」という思いを受け止め切れていなかつたところもあったのだろうと反省することもあります。とはいえ、子どもたちの全ての「思い」や「要求」を通しては学校・家庭教育が成り立たなくなってくるのも事実です。そこで本文中にも出てきましたが、子ども一人一人の状態を把握しながら、「今この子に何が大切か」を見極め、時には要求を全面受容したり、時には教師、保護者の思いを伝えて折り合いをつける場合も出てきます。その上で「一人一人のニーズに応えていく」ということになると考えたのです。

このような考え方は特に目新しいことではなく、教育活動に携わる者にとって至極当たり前のことではありますが、今回は学校の研究として取り上げ、まず各学部それぞれの方法で共通理解を持ち、「子どもの思いを尊重しながら、教師の思いを織り込む」をいかに教育活動で活かしていくかという課題を研究テーマとして設定し、実践してきました。

今年度の研究は 3 年計画の 1 年目という事もあり、各学部では研究方法についての検討はなされていましたが、実践については充分な積み重ねができるといえません。どうぞ皆様からの忌憚のないご指導・ご鞭撻を頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、金沢大学の先生方には、研究協力者として的確なご助言を頂き、ご指導頂いたことを心より感謝申し上げます。

副校長 今井 康弘

研究同人

校長 山岸 雅子
 副校長 今井 康弘
 教頭 山本 仁

小学部

山松	田尾	富裕	美美	男裕
山山	田哲	哲	裕	
高高	鋤	規	美代	
竹竹	下田	貴	子	
福吉	川		開	
柳	生	美由	季	
東	田	幸	江	(講)
尾	山	登志	子	(講)

高等部

野藤	下近	宅本	水瀨	令明	子子
宅	三橋	水	野	和直	憲紀
本	清村	瀨	足	雅真	恵理
水	村	野	尾	智	康
瀨	小鶴	足	尾	進	午
野	鏡	尾	千亞	千佳	(講)
足		千佳	紀子	子	(講)

中学部

神谷	みつ江	
荻野	稔朗	
木下	由起	
新保	利久	
今川	陽子	
田中	吉治	
伊藤	由美子	
浦中	久美子	
中谷	宏和	(講)
	至子	(講)

自立活動担当

河西	河野	俊志	寛伸
養護教諭	田口	志真	弓人
栄養教諭	寺崎	篤篤	(講)
情報担当	田		

旧同人

辻石	辻	俊史	史美一
田原	石田	雄由	奈慧真
岩中	原岩	惠見智	
中武	中武		